

製品名: PTEN (リン酸化 Ser380/T382/T383) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05313

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	PTEN
別名	PTEN; MMAC1; TEP1; Phosphatidylinositol 3; 4,5-trisphosphate 3-phosphatase and dual-specificity protein phosphatase PTEN; Mutated in multiple advanced cancers 1; Phosphatase and tensin homolog
遺伝子 ID	5728.0
SwissProt ID	P60484
免疫原	抗血清は、ヒト PTEN の Ser380/Thr382/Thr383 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 370-400

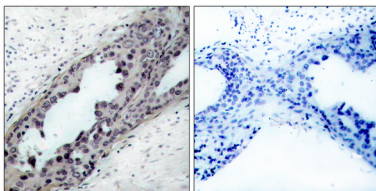
背景

腫瘍抑制因子。二重特異性タンパク質ホスファターゼとして作用し、チロシン、セリン、およびスレオニンリン酸化タンパク質を脱リン酸化します。また、脂質ホスファターゼとしても作用し、ホスファチジルイノシトール 3, 4, 5-トリスリン酸、ホスファチジルイノシトール 3, 4-ジリン酸、ホスファチジルイノシトール 3-リン酸、およびイノシトール 1, 3, 4, 5-テトラキスリン酸からイノシトール環の D3 位のリン酸を除去します。in vitro における基質選択性は、PtdIns(3, 4, 5)P3 > PtdIns(3, 4)P2 > PtdIns3P > Ins(1, 3, 4, 5)P4 の順です。

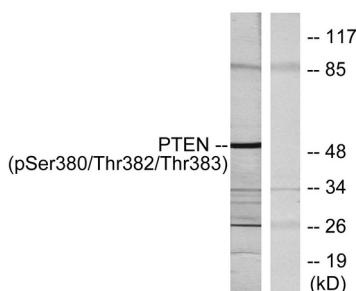
研究分野

インスリン受容体; 微小管調節; B 細胞受容体; mTOR; PI3K/Akt; タンパク質アセチル化

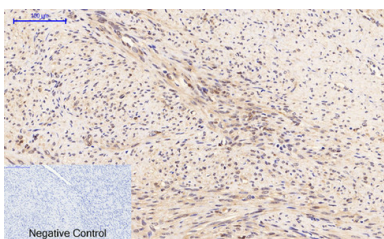
画像データ



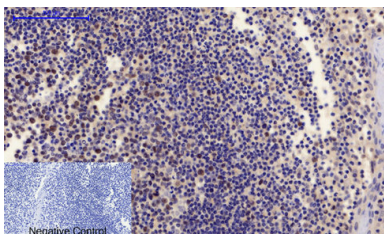
PTEN (リン酸化 Ser380/Thr382/Thr383) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。右の写真は PTEN (リン酸化 Ser380/Thr382/Thr383) ペプチドでブロックした画像です。



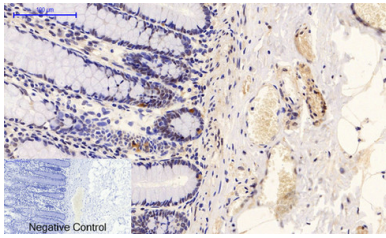
PTEN (リン酸化 Ser380/Thr382/Thr383) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには PTEN (リン酸化 Ser380/Thr382/Thr383) ペプチドでブロッキングされている。



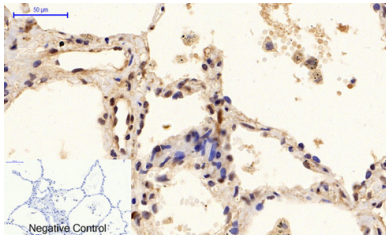
パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. PTEN (リン酸化 Ser380/T382/T383) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



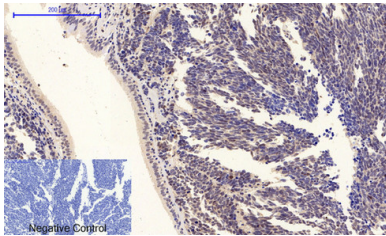
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. PTEN (リン酸化 Ser380/T382/T383) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



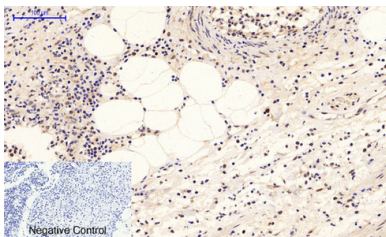
パラフィン包埋ヒト大腸組織の免疫組織化学染色。1. PTEN（リン酸化Ser380/T382/T383）ポリクローナル抗体を1:200に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体を活性化（>98℃、20分）した。3. 二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



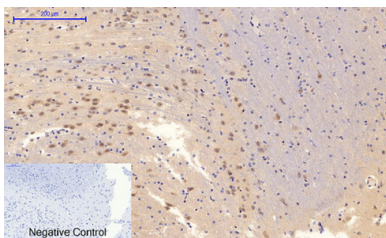
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. PTEN（リン酸化Ser380/T382/T383）ポリクローナル抗体を1:200に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98℃、20分）を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. PTEN（リン酸化Ser380/T382/T383）ポリクローナル抗体を1:200に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム（pH 6.0）を用いて抗体賦活化（>98℃、20分）を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト虫垂組織の免疫組織化学染色。1. PTEN（リン酸化Ser380/T382/T383）ポリクローナル抗体を1:200に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0を用いて抗体賦活化（>98℃、20分）を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット脳組織の免疫組織化学染色。1. PTEN（リン酸化Ser380/T382/T383）ポリクローナル抗体を1:200に希釈（4℃、一晚）。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0を用いて抗体賦活化（>98℃、20分）を行った。3. 二次抗体を1:200に希釈（室温、30分）。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。